



TITLE:

發刊の辭

AUTHOR(S):

松井, 元興

---

CITATION:

松井, 元興. 發刊の辭. 防虫科学 1937, 1: 1-1

ISSUE DATE:

1937-06-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/156441>

RIGHT:

## 發 刊 の 辭

松 井 元 興

我國に於て年々消費せらるる羊毛製品の原料たる原毛及びトップの殆んど全部は輸入に俟ち、最近の輸入額は實に二億圓に近い高に上つてゐる。然るに是等原料及び其の製品は常に蟲害に依り多量の損失を蒙るのであつて、其の數量は極く内輪に見積も三パーセントを降らない。之を金額にすれば原料に對して約五百萬圓、製品に對しては其の倍額即ち壹千萬圓を超えるものと推定される。今日の如く羊毛問題の重大時機に際しては、此の數字は特に吾人の注意を索く次第である。

而して害蟲に依る損害は單に羊毛製品のみならず一般農産、畜産、林産及び水産の各方面に亘つて極めて大なるものがある。例へば我國の主要農産物のみの總價額は約二十億圓であつて其の蟲害は二パーセントとしても實に四千萬圓に昇る。其の他害蟲に依つて吾人が日常直接間接に蒙る損害は蓋し想像も及ばぬ莫大なものであらう。

斯の如き廣義の農業生産、農産物及び日常生活に對する蟲害の防除は國家的見地からして極めて重要な事業なるにも拘らず今日迄は概して局部的或は分割的研究あるのみであつて、何等統制ある研究機關を見なかつたのは誠に遺憾である。幸にして今度本學に篤志家の寄附に依り防蟲科學の綜合研究機關の設立を見たので、從來とは異り、専ら應用昆蟲學及び殺蟲劑化學等の密接なる聯繫に依つて、防蟲に關する基礎及び應用兩方面の研究を進め、以て聊かなりとも防蟲報國の實を擧げ度いと念願する次第である。

茲に發刊する所の“防蟲科學”なる雑誌は此の目的達成の一手段として防蟲科學に關する通俗知識普及の爲に編纂したものであつて、本第一號には取敢へず現下緊急の問題たる羊毛防蟲に關する論文を蒐録した。號を逐ふて其の他のものにも及ぼしたいと思ふて居る。